



病棟増築と既設改修工事が完成し、全面供用を開始しました

平成 22 年 4 月から、当院は病棟増築・既設改修工事を行ってきましたが、昨年 12 月 21 日の最終病棟引越しにより、全ての病棟が全面供用を開始しました。

平成 24 年 5 月の新病棟の供用開始後、既設病棟の改修に着手し、3 階病棟から順次、改修工事と病棟移転を繰り返すといった非常に難しい工事でしたが、患者さんのご理解とご協力の下、無事に工事を完成することができました。

また、E R 棟の増築、外来診察室等の改修も併せて行いました。

増築・改修により以下の点が
大きく改善されました。

1. 増築棟

- ・震災などの災害時にも病院機能が維持できる免震構造を採用しました。
- ・増加する手術件数に対応するため、手術室を 9 室から 12 室に増設し、中部地区初の血管造影撮影装置と手術台が一体となったハイブリッド手術室を設置しました。
- ・災害拠点病院としての機能向上を図るため、手術室だけではなく中央材料室や厨房の拡充を行いました。
- ・周産期医療の充実を図るため、新生児集中治療室 (NICU) を 6 床から 9 床に増床しました。また、母子胎児集中治療室 (MFICU) 6 床も設置しました。
- ・血液疾患等の無菌状態が必要な患者用に無菌治療室 (クリーンルーム) を設置しました。



新生児集中治療室 (NICU)

2. 既設棟

- ・従来の外来診察室の中待合いをなくし、診察時のプライバシーを確保するとともに、内装等の全面改修を行いました。
- ・外来診療環境の改善とバリアフリー促進のため、外来に寝台用エレベーターを増設しました。
- ・がん医療の充実を図るため、化学療法室を 14 床に増床しました。
- ・既設病棟の 6 人床病室の 4 人床化、個室の増室、トイレ等の設備更新により療養環境の改善を図りました。
- ・老朽化した外壁と既存の病棟エレベーターを改修しました。
- ・3 次救急指定に伴い救命救急センター (E R) の増築では、MRI や処置室の増設と病床の増設を行い救命救急センターとしての機能の強化・充実を図りました。
- ・院内に 24 時間営業のコンビニエンスストアを設置しました。



化学療法室



各階案内図

(平成 26 年 3 月現在)

		8B病棟 呼吸器内科 呼吸器外科 耳鼻咽喉科 脳神経内科	8A病棟 呼吸器内科 呼吸器外科 耳鼻咽喉科 脳神経内科	8階	8C病棟 血液内科 眼科 呼吸器内科 腎臓内科		
		7B病棟 脳神経外科 脳神経内科	7A病棟 脳神経外科 脳神経内科	7階	7C病棟 小児科 7C2病棟 NICU (新生児集中治療室) GCU (新生児回復治療室)		
		6B病棟 整形外科 形成外科 脳神経外科 歯科口腔外科	6A病棟 整形外科 形成外科 脳神経外科 歯科口腔外科 産婦人科	6階	6C病棟 産婦人科 MFICU (母体胎児集中治療室)		
		5B病棟 外科 消化器内科 消化器外科 乳腺外科	5A病棟 外科 消化器内科 消化器外科 乳腺外科・産婦人科	5階	5C病棟 外科 消化器外科 乳腺外科		
		4B病棟 心臓血管外科 循環器内科 内科	4A病棟 心臓血管外科 循環器内科 内科 心臓カテーテルセンター	4階			
ICU(集中治療室)	3E病棟	3B病棟 泌尿器科 皮膚科 腎臓内科 糖尿病・内分泌内科	3A病棟 泌尿器科 皮膚科 腎臓内科 糖尿病・内分泌内科	3階	中央手術室	人工透析室	
外来診察 小児科、歯科口腔外科、心臓血管外科、呼吸器外科、糖尿病・内分泌内科、脳神経内科、耳鼻咽喉科、眼科、産婦人科、精神科、外来栄養指導室	救命救急センター ・診察 ・処置 ・検査	脳波・神経生理・検査室 アイトープ検査室・中央検査室		2階	中央材料室 栄養管理室	外来診察 腎臓内科 泌尿器科 結石破碎室 膀胱鏡室 栄養調理指導室	リハビリテーション室
		総務課 新病棟整備課	診療情報管理室 喫茶室				
外来診察 内科、血液内科、循環器内科、呼吸器内科、脳神経内科、消化器内科、外科、消化器外科、乳腺外科、形成外科、脳神経外科、整形外科、皮膚科 地域連携・医療相談センター「サルビア」 院外薬局案内 外来受付、会計窓口		放射線科、中央放射線室、生理検査室、中央採血室、点滴処置室、化学療法室、内視鏡室、薬局		1階	MRI室 霊安室		
		入退院受付 医事課	コンビニエンスストア 理髪室				

外来診療棟

救急棟

A病棟・B病棟・管理部門

C病棟

腎センター棟

サービス棟

■医療福祉サービスや医療機関のご利用、また在宅療養等についてお困りの場合は、
地域連携・医療相談センター「サルビア」へご相談ください
 相談時間:月～金 / 9:00～17:00 (原則予約制) TEL354-1111 (内線) 5185



中待合いを廃止するなど、

外来診療部門を改善しました

このたびの当院の大規模改修・増改築工事は外来棟から始まりました。小児科・泌尿器科・腎臓内科を皮切りに、現在の中央処置室・内視鏡・化学療法室を仮設外来として使用し、各診療科の工事に合わせて改修と復旧を繰り返しながら、スタッフ全員が安全を第一に、来院患者に極力迷惑が掛からないように足掛け四年にわたって進められました。

その結果、外来全体は漆喰の白がまぶしい美しいイメージになり、壁や床の色彩に心地よさを感じてもらえるようになり、また、来院される患者さんに分かりやすいよう案内表示を配慮させていただきました。いかがでしょうか。

さて、以前の外来棟を覚えていらっしゃるでしょうか？変わった点はいろいろとありますが、受付表示がアルファベットになりました。診察室の番号は、全科通し番号とし、1番から65番まであります。しかし、皮膚科と泌尿器科の場所が大きく変わったり、内科系の診療科が一階と二階に分かれてしまったりと、少し分かりにくくなってしまった点もあり、ご迷惑をお掛けしております。

また、玄関からは少し奥になりますが、東棟側に寝台用エレベーターが新設されましたのでご利用ください。

中待合いの廃止は、病院の理念にも掲げられているプライバシーの保護にあたるものです。以前は、廊下からドアを入れて長椅子の並んだ中待合いで待っていただき、診察室入口はカーテンだけで天井は解放状態だったため、患者さんと医師の会話が中待合いにも聞こえていました。病気の不安を抱え言い知れぬ緊張の中、診察を受ける患者さんのいろいろな思いをお聴きするには決して良い環境ではなく、患者さんには大変不快な思いをさせたこともあったことと思います。現在は、診察室の入口には引き戸とカーテンが付いており、後ろのスタッフ側廊下も引き戸を設け完全個室化されました。そのような中、最近では患者さんの安心感も手伝ってか、患者さんと医師との会話も少し長くなってきたとの声も聞かれます。

これからも、皆様のご意見をお聞きしながら、さらに患者さんから愛される地域の中核病院の外来部門として努力してまいります。



外来待合い



診察室

新

入退院受付窓口を移動し、 リニューアルオープンしました

皆さんから親しまれてきました入退院受付の窓口が、このたび、旧売店スペース（1階医事課の東隣）に移動し、新たに待合室を設けリニューアルオープンしました。従来の入退院受付窓口には待合室がなく、皆さんには大変ご不便をお掛けしてきましたが、ようやく改善されました。

新たな受付窓口は以前より開口部分が大きくなり、皆さんとの距離がグッと近くなりました。カウンターもウッドタイプにしたため、明るく温かみのある窓口になったものと思います。新しくできた待合室は適度な広さで、椅子も以前使用していたものから明るめの色に変えたため、雰囲気が一層と良くなりました。



入口付近



室内



入退院受付窓口

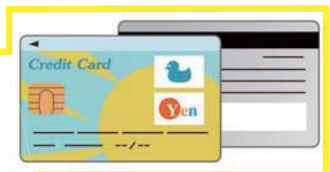
自動精算機でも診療明細書が発行できるようになりました

本年4月からは、領収書とともに診療明細書を必ず皆さんにお渡しするようになります。従来の自動精算機では、会計窓口でお渡ししている診療明細書が発行できなかったため、自動精算機を更新して診療明細書が発行できるようになりました。



自動精算機

また皆さんからの要望が多かったクレジットカード払いについて、利便性向上のため会計窓口と自動精算機にてご利用いただけます。



診療明細書		明細管理番号		001 頁	
外 来 保 険		診療期間			
患者番号	氏名	種	種	期	日
区分	項目名	点	数	回数	金額
初・再診料	* 外来診療料	108		1	
検査	* 加齢視網膜検査 (前照部) 後生核 染色	48		1	
	使用再検査	48		1	
	* 加齢視網膜検査 (前照部)	69		1	
	* 矯正視力検査 (眼鏡処方せんの交付無し)				
投薬	* 【院外処方】				
	外用薬				
	コリコール点眼液 5ml 6瓶			1	
その他	* 処方せん料 (0 種類以下)	68		1	
	* 【院外処方】				
	後発医薬品変更可コメント				

診療明細書

個室を増やし、病室を4人床化するとともに、 トイレなどの設備面を充実しました

昨年12月21日の最終引越しから1カ月以上が経過しました。A B病棟一看護単位となり、看護業務や物品の保管場所など、各病棟ではいろいろ試行錯誤しているところだと思います。

工事期間中は、エレベーターが2機ずつしか使用できない期間が約1年続き、長年検討されてきた煙突工事も行われました。また、5回もの引越しの間、診療科編成に伴う職員の異動もありましたが、皆が一致団結して乗り切った結果、大きな問題もなく無事終了できました。

改修工事前に120室であった個室は、改修後は158室に増えました。これまで、個室は手術患者や重症患者などを優先する必要から、個室希望の患者さんの意向に添えないことがありましたが、個室の数が増えたお陰で患者さんの希望をかなえられるよう調整しやすくなりました。

病室も6人床から4人床に改修されました。これまで、入院患者や部屋移動時など真ん中のベッドを避け、端のベッドを希望される患者さんがほとんどでした。真ん中のベッドの患者さんには、端のベッドが空くまで我慢していただくような状況も解消されました。

各病室に給湯の洗面台が設置され、寒い冬は温かいお湯が出るようになりました。また、洗面所まで行かなくても病室で洗面ができるようになりました。

職員も患者さんの箸やスプーンなどを病室で処理ができるようになり、患者さん同士の物品の間違いがなくなるとともに、動線も短縮されました。

個室にトイレが設置されたのはもちろん、4人床病室間にもトイレが設置され便利になりました。また、これまでは整形外科や脳神経内科などの限られた病棟にしかなかった多目的トイレについても、各病棟に設置されるなど、ますます増加する高齢者の患者さんには便利で快適なものになりました。

改修前のスタッフステーションは、各病棟いろいろなキャビネットや棚を使用し雑然としていましたが、全病棟の作業コーナーをラベンダー色の大容量収納が可能なユニットで統一し、整理整頓しやすくなりました。また、ドアや壁をなくしたオープンカウンターは、開放的で明るく、患者や家族、来院者の方が声を掛けやすい環境になりました。

このように、建物などのハード面は新しくなりましたが、今後はソフト面でも看護の質を高め、患者さんに安全で安心して入院生活を過ごしていただけるよう、職員が一丸となって努めていきます。

開放的で明るい
スタッフステーション



4人床室



個室

リニューアルした リハビリテーション科をご紹介します

当院のリハビリテーション科は昨年4月に2階へ移転し、リニューアルしました。

理学療法、作業療法、言語聴覚療法の各部門があり、医師からの指示を受け病気や外傷の初期の段階で全身管理の必要なあらゆる年齢の方を対象とし、症状に合わせて心身の基本的な機能の改善を援助しています。

本年1月1日現在で、スタッフは理学療法士7名、作業療法士3名、言語聴覚士1名、リハビリ助手1名、受付1名で構成されています。

● 作業療法



病気や手の怪我（骨折や腱損傷）により、日常生活に支障をきたした患者さんを対象に、身体機能回復訓練や食事・着替え・トイレ動作等の日常生活動作訓練、家事動作訓練、認知機能訓練を行っています。

生活動作訓練のための和式生活を想定した畳の部屋や台所も設置しています。

● 理学療法



身体に障害のある方に対し、機能の向上や動作能力の回復を図るための治療や運動療法を行っています。また、昨年5月からは心筋梗塞や慢性心不全の患者さんの再発や合併症の予防のための心大血管リハビリテーションも行っています。

訓練室には床上動作訓練等に使用するマットや立位・歩行訓練等に利用する平行棒、痛み緩和や筋肉のこわばり等を軽減するための物理療法機器、定量負荷をかけて心肺機能を維持・強化するための据置型自転車等の器具があります。

● 言語聴覚療法



失語症を含む高次脳機能障害、構音障害などのコミュニケーション障害（※1）、摂食嚥下障害（※2）のリハビリテーションを行っています。また、神経心理学的諸検査も実施しています。

- （※1）構音障害とは、「正確な構音ができない状態」であり、言葉がうまくしゃべることができなくなる障害。
- （※2）摂食嚥下障害とは、口から食べ飲み込むことができない障害。



リハビリテーション室



日常生活動作室

市民の皆さんの健康と安全を守ります!

救命救急センター(ER-YOKKAICHI) の活動紹介



救命救急センター(ER-YOKKAICHI)は、24時間対応の救急医療を提供する目的で、平成15年に救急センターとして設置されました。

平成21年には、重症外傷や複数診療科にまたがる重症患者に対応する三次救急医療を担うため、救命救急センターの指定を受けました。

平成24年4月にはER棟の改築を行い、MRI室、処置室などを増設し、救急救命センターとしての機能強化・充実を図りました。

一日平均では、ERを受診される患者さん82名、救急車数18台、緊急入院11名という県内随一の実績を誇ります。また、「子どもが熱を出して、どうしたらいいかわからない」、「夫が、胸が痛いと言ってうなっており、冷や汗も出ている。どうしたらいい?」といった電話への対応も行っています。

平成24年からは、医師の診察前に看護師が患者さんの状態を見て緊急度と重症度を見極め、すぐに治療や処置が必要な患者かどうかを判断する院内トリアージを開始しました。



ER棟入口

★病院からのお願いです

タクシー代わりの救急車の利用や、「平日は仕事があるから、用事があるから、時間外で診てほしい」というコンビニ受診は、控えていただくようお願いします。

今年4月からは、市消防本部と当院とが連携した「救急ワークステーション」が本格稼働します。これは、救急隊員が平日の日中に当院に待機し、医療的な処置技術の研修を受けながら、救急出動の要請があれば、病院から出動するものです。

医師、看護師、救急隊員が日頃から顔の見える関係を築きながら、連携して、さらに高レベルの救急サービスを市民の皆さんに提供し、救命率の向上を図っていきます。

当院では、救命救急医療は医療の原点であるという理念に基づき、いつでもだれもが安心して最善の医療を受けられるような、救急医療サービスの提供に努めます。



救急隊員の研修の様子



院内にコンビニエンスストアがオープン



平成 24 年度に病院利用者のサービスの向上を図ることを目的に、公募型プロポーザル方式による審査を経て、(株)ファミリーマートが選定されました。

病棟改修に合わせてオープン準備が進み、昨年 7 月 1 日に「ファミリーマート市立四日市病院店」がオープンしました。

年中無休の 24 時間営業で休日・夜間の利用もでき、ATM やマルチコピー機も設置しています。また、コンビニのすぐ隣にはイトインコーナーを設け、テーブルやカウンター席、外来と同じ診察番号の案内表示機(3台)を設置していますので、来院者の方の休憩や飲食にもお使いいただけます。



イトインコーナー

夜間 20 時～翌朝 7 時までの間は、一般の方の病院内への出入りはご遠慮ください。



店長さんにオープンからの様子について、お話を聞くことができましたので、その一部を紹介させていただきます。

オープン当初から多数の利用があり、その 6 割程度(土日は 4 割程度)が病院関係者のようです。

よく売れる商品は、お茶・お水が他店と比べてもダントツに多く、続いて挽きたてコーヒーが多いようです。健康に配慮してか、女性のお客さんがサラダ類やヨーグルトを購入されるケースが多く、同じ種類の商品の中でも、病院内ということもあり健康に配慮した商品に人気が集まる傾向にあるそうです。

また、新商品よりも定番商品の方が好調で、昨年の暑い夏でもおでんや中華まんがよく売れたそうです。

現在最も気を付けている点をお聞きしたところ、通常の路面店より売り場面積が狭く販売品目も限られるため、日々の販売データを参考にして最もニーズに合った商品をそろえることが他店以上に求められるとのことでした。また、他店では商品補充のタイミングが朝昼夕の各ピーク後であるのが、当店では 1 日中ピーク状態が続くため、開店当初はタイミングを計りかねていたが現在は改善したそうです。今後は、医療材料に関しても、病院との打ち合わせを重ね、品目数を増やし患者さんの利便性を高めていきたいとのことでした。

店長さんからは、販売希望商品やご意見をイトインコーナーに設置したアンケート BOX にてお聴かせくださいとのことでした。



店内の様子